

2019年度常陸大宮市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市の耕地面積は、4,230haで、このうち水田面積が2,425haと全体耕地面積の57%を占めており、その約53%がコシヒカリを中心とした主食用米の作付が行われている。

また、転作作物としては、主に飼料用米であるが、営農組合による麦、大豆の土地利用型作物も栽培されている。

一方、農業従事者の高齢化や後継者不足に伴い、不作付地の拡大が進むとともに耕作放棄地が急激に増加している。

今後は、耕作放棄地の解消に向け、農地の集約化や農業生産基盤の計画的な整備を図るとともに、農業を支える意欲ある担い手や新規就農者などの確保・育成を進める必要がある。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

コシヒカリや特別栽培米「奥久慈の恵・うまかっぺ」を中心に安心安全でおいしい米づくりを推進し、売れる米づくりの徹底により農業者の経営の安定化を進める。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、水田フル活用の基幹作物として作付拡大を推進する。

また、飼料用米の生産拡大に当たっては、国からの産地交付金を活用した多収品種の導入等生産性向上の取組みを図り、農業者の所得向上と低コスト化を目指す。

イ 米粉用米

米粉用米の栽培については、実需者との連携により栽培の拡大を図る。

ウ 新市場開拓用米

各種補助事業を活用し、農業者の組織化や輸出提携先と農業者とのマッチング支援、意欲ある農業者の収益力向上に資する設備等の導入支援を進めるとともに、物流コスト低減試験の実施等、米輸出の産地体制づくりを支援する。

エ WCS用稲

契約した畜産農家と継続して取組みを推進するとともに自家利用としての取組みを推進する。

また、国からの産地交付金を活用した生産性向上のための取組みとして多収品種の導入を推進する。

オ 加工用米

畑作物の導入が困難な排水不良田を中心に作付を推進するとともに、全国集荷団体等を通じた複数年契約を拡大し、安定した供給先を確保する。

カ 備蓄米

集荷団体と連携し、備蓄米制度の趣旨に基づき県優先枠の確保に努めるとともに、主食用米の需要動向等を注視し、県優先枠の範囲内で畑作物の導入が困難な排水不良田での作付を推進する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については、畑作における土地利用型作物として水田営農の確立に向けた取組みを推進する上で欠くことのできない作物である。集落営農での作付けを中心に推進し、湿害を回避するための排水対策の実施、機械の導入による省力化、団地化など生産性向上を図り作付けの拡大を図る。飼料作物は、地元畜産農家との連携及び自家利用としての取組みを推進することにより需要先を確保し、飼料自給率向上につながる取組みとして作付拡大を図る。

(4) そば、なたね

そばは、湿害に弱いことから排水対策や排水条件が良い水田を選ぶなど適地適作を進める。

なたねは、地域の実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持・拡大を図る。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

ア 野菜

「奥久慈ねぎ」、「奥久慈なす」を振興品目として作付拡大を図る。

イ 花き・花木

花きの「トルコギキョウ」等や枝物生産として「ハナモモ」や「やなぎ類」の作付拡大を図る。

ウ 果樹

柿、栗等の作付を推進して、不作付地の減少を図る。

エ その他作物（加工用青刈り稲・豆類・雑穀・湛水性野菜等）

加工用青刈り稲を振興作物として作付拡大を図る。

当地域特産品になっている「ベニバナインゲン（常陸大黒）」について、販売収益性が高いことから振興品目として作付拡大を図る。

「かんぴょう」、「雑穀（ごまを含む）」等を振興品目として作付拡大を図る。

「れんこん」等を振興品目として作付拡大を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	2020年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	1,286.8	1,285.0	1,283.0
飼料用米	173.2	174.0	175.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.9	1.0	1.1
WCS用稲	5.7	5.7	5.8
加工用米	1.3	1.4	1.5
備蓄米	0.0	0.0	0.0
麦	23.0	24.0	25.0
大豆	6.9	4.4	4.5
飼料作物	28.6	27.0	27.1
そば	5.3	5.7	5.8
なたね	0.0	0.0	0.0
その他地域振興作物	897.5	897.0	896.4
野菜	3.2	3.4	3.5
花き・花木	7.8	8.0	8.2
果樹	0.3	0.4	0.5
豆類	0.2	0.5	0.6
その他作物等（休耕含む）	886.0	884.7	883.6

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）		目標値	
1	飼料用米 WCS用稲	飼料用米・WCS用稲の生産性向上等の取組への助成	・ 飼料用米、WCS用稲の作付面積 (ha) ・ 飼料用米の多収品種導入割合 (%)	(2018年度) 169.4ha (2018年度) 60.7%	(2018年度) 5.7ha	(2019年度) 169.9ha (2019年度) 63.0%	(2019年度) 5.8ha (2020年度) 179.9ha (2020年度) 64.0%
2	新市場開拓用米	新市場開拓用米の生産性向上等の取組への助成	・ 新市場開拓用米の作付面積 (ha) ・ 新市場開拓用米の多収品種導入割合 (%)	(2018年度) 0.9ha (2018年度) 0.0%		(2019年度) 1.0ha (2019年度) 100.0%	(2020年度) 1.1ha (2020年度) 100.0%
3	飼料用米生産ほ場の稲わら及びわら専用稲	耕畜連携助成	・ 農地の高度利用面積 (ha)	(2018年度) 21.1ha		(2019年度) 21.1ha (2020年度) 21.2ha	
4	飼料用米 WCS用稲	新規需要米団地加算	・ 飼料用米・WCS用稲団地化面積 (ha)	(2018年度) 82.8ha (2018年度) 5.7ha		(2019年度) 82.8ha (2019年度) 5.7ha	(2020年度) 82.9ha (2020年度) 5.8ha
5	大豆 飼料作物 そば	二毛作助成	・ 農地の高度利用面積 (ha)	(2018年度) 4.0ha (2018年度) 2.6ha (2018年度) 0.4ha		(2019年度) 4.1ha (2019年度) 2.6ha (2019年度) 0.4ha	(2020年度) 4.1ha (2020年度) 2.7ha (2020年度) 0.5ha
6	園芸作物等 (高収益作物)	地域振興作物助成	・ 地域振興作物作付面積 (ha)	(2018年度) 11.5ha		(2019年度) 12.3ha (2020年度) 12.5ha	

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。